

『英和对訳袖珍辞書』（文久2年版）の異体字の考察

三好 彰

キーワード：英和对訳袖珍辞書 漢字 異体字

要旨

先に筆者は『英和对訳袖珍辞書』の現存する原稿で使われている漢字とその異体字が刊本によってどのように変わったかを考察した。その原稿は『英和对訳袖珍辞書』の全体の30分の1であったが、本稿では『英和对訳袖珍辞書』全体について使われている異体字を総洗いして論ずる。

漢字とその異体字の組を「異体字のセット」と称すると、幕末に市販された『英和对訳袖珍辞書』は816組の異体字セットを使っていることが分かった。多くの異体字セットが使われているのは辞書が言葉の集大成であるためと考えられる。

東京大学史料編纂所データベース異体字同定一覧は古文書に出ている1083組の異体字セットを挙げている。『英和对訳袖珍辞書』はこのうちの722組を使っている。そして東京大学史料編纂所データベース異体字同定一覧には無い新しい異体字を使った94組があり、併せて816組である。

『英和对訳袖珍辞書』が使っている漢字の中にシンガポールで作られた漢字、およびシンガポールが現在中国本土とは異なる字体で使っている簡化字がある。明治維新前にシンガポールとの間に交流があったことを示唆している。

0. はじめに

『英和对訳袖珍辞書』（堀達之助編 1862）は市販された最初の英和辞書である。そしてその原稿の一部が残っている（名雲純一編 2007）。先に筆者はこの原稿で使われている漢字とその異体字が刊本でどのように変わったかを考察した（三好彰 2018）。その原稿は『英和对訳袖珍辞書』の全体の30分の1であったが、本稿では『英和对訳袖珍辞書』全体について使われている異体字を総洗いして論ずる。

参照の便のために以下では、『英和对訳袖珍辞書』（堀達之助編 1862）を『袖珍辞書』と略称する。『袖珍辞書』の見出し部と邦訳部の影印を引用するが、見出しには英単語のほか、句、例文も含まれており、本稿ではこれをエントリーと総称する。そして漢字（親字）とその異体字の組を異体字セットと称する。

現存する『袖珍辞書』は経年変化のためか大きさが同じでないが、平均で19×16×6（縦横厚さ 単位：センチメートル）である。それゆえ袖珍辞書というものの羽織の袖に入らず、枕辞書と呼ばれることがある。

『袖珍辞書』の英語の部分は活版印刷であり、日本語の部分は木版印刷である。両印刷方式を巧みに整合させた他に類を見ない印刷方法である。本稿で考察する漢字は木版印刷、つまり手

彫りの文字であり、その大きさは一定していない。

1. 『袖珍辞書』の異体字についての先行研究の検証

『袖珍辞書』で使われている異体字の先行研究として『江戸時代 翻訳日本語辞典』（杉本つとむ編 1981: 187）が図1に示す「異体字管見」の表にまとめているのがよく知られている。

図1には活字で刻された漢字（正字と称している）に対応する異体字を影印で示しており、全体で76組の異体字のセットが挙げられている。

影印で示された異体字で容易に活字に直せるものがある。たとえば最上段は右から順に、昇（異）、因（因）、营（營）、淵（淵）、应（応）である、ここで（）内はその異体字に対応する親字である。

図1の影印で読み解きにくいのがいくつかある。それらについて以下に論ずる。

図1. 異体字管見の表

1.1. 宋朝体の漢字

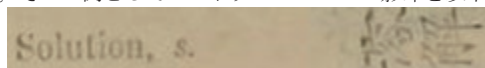
現在の日本では教科書を含めて明朝体が広く使われている。図1には明朝体より古い字体である宋朝体の漢字が3字出ている。それらが出ている『袖珍辞書』の該当のエントリーを影印で下記に示す。影印の右に宋朝体の漢字を示し、（）内に明朝体の同字を示す。

I had like to have lost.	失 (大誤)	槩 (槩)
Fault, s.	誤 (誤)	誤 (誤)
Construe-ued-uing, v. a.	解 (解)	解 (解)

「槩」と「槩」、「誤」と「誤」は、それぞれ宋朝体と明朝体の違いであって異体字関係では無い。「解」は「解」の宋朝体である、つまり角篇の「角」が「角」になっている。そして「解」は明朝体の「解」の異体字である。上記のエントリー Construe の邦訳では宋朝体の「解」と「解」¹が混在している。

なお『袖珍辞書』全体の中で明朝体の「解」は使われておらず、すべて宋朝体の「解」であり全体で19箇所である。この字体が古い時代に我が国に伝わって定着していたと考えられる。

¹ エントリー Construe の邦訳では宋朝体の「解」が使われているが、『袖珍辞書』では明朝体の「解」も使われている。その1例としてエントリー solution の影印を以下に示す。


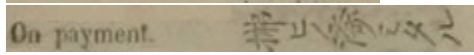
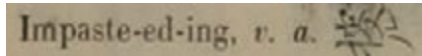


なお明朝体、宋朝体ともに歴史的な変遷をたどっているが、本稿では現代のコンピュータに標準として実装されている明朝体²の漢字を用いる。そして文字コードの宋朝体オプション SimSun として実装されている漢字を用いる。上記した宋朝体の漢字はいずれも SimSun である。

本稿は明朝体に依るので、宋朝体を異体字とは見なさない。

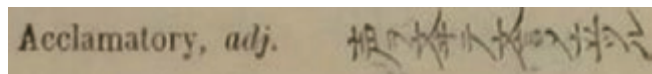
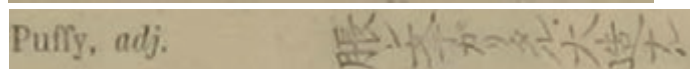
1.2. 崩し字で書かれた異体字

図1に崩し字で書かれた異体字がある。読みにくいものもあるが意味を汲み取って解説できたものを以下に『袖珍辞書』の影印とともに示す。影印の右側に異体字を活字で示し、その親字を：に続けて記す。

	襍（邦訳の最初と4番目の漢字）：雜
	濟（邦訳の3番目の漢字）：濟
	揆（邦訳の最初の漢字）：探

これらの3文字（襍、濟、揆）は『袖珍辞書』の中で上記のエントリーの邦訳に出てくるだけである。つまり1度だけ使われている。

そのほかに図1に崩し字で書かれた「拳」の異体字である「𠂔」が2様出ている。それらの影印を以下に示す。

エントリー Acclamatory の邦訳の3番目の字が「𠂔」の崩し字（文の下に𠂔）である。この崩し字と、エントリー Puffy の邦訳の3番目の字である「𠂔」の崩し字（文の下に手）は同じではない。崩し字は多様なので、こういうことがあり得る。

図1に出ているその他の崩し字については煩雑を避けて影印を省くが、検証の便のために異体字に続く（）内にその字が出ているエントリーを示し、そして：に続けてその親字を付す。次のとおりである。

叅(Capitulate)：參	國(Accidence)：國（国の異体字）	国(Bilander)：国
傳(Epidemic)：伝	𠂔(Abiding)：留	

この「国」は口に王であって玉でない。そして『袖珍辞書』全体を通して「国」が229箇所使われているが、「国」の字は一度も使われていない。この「国」については後述する。

1.3. 読み違いとみなせる2つの字

図1の中で読み違いと思える字が2つある。影印で示すと次の2つである。

² 『袖珍辞書』は、たとえば『康熙字典』に基づく「康熙字典体」の「諭」ではなく「諭」を使っているので「いわゆる康熙字典体」に拠っているとみなせる。

還 昧

前者の影印の文字が出ている『袖珍辞書』のエントリー影印は次のようであり、邦訳の2番目の文字である。

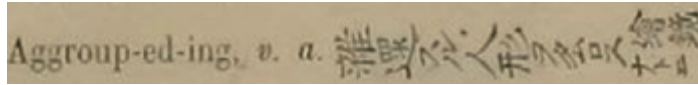
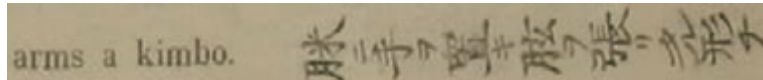


図1はこの字を「還」の異体字とみなしているが、このエントリー **Aggroup** の意味から考えて「還」ではなく「逕」とみなせる。

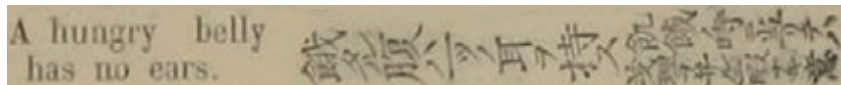
後者の影印の文字を図1では「腰 脇 胸」の異体字としている。この文字は『袖珍辞書』の中でただ1か所に出ており、影印で示すと下記の邦訳部の先頭の文字である。



このエントリーは **Kimbo** の例句 **arms a kimbo** であるが、現代の理解では「両手を腰にあてて肘を後方に広げるポーズ」を指す。この影印を図1は腰ないし脇ないし胸の異体字としているのは首肯しかねる。『袖珍辞書』のこの訳を付けた人が字の傍に米と書いているので膝の崩し字として書いたと考えられる。いずれにしる崩し字であって異体字ではない。

1.4. 異体字ではなく崩し字

図1に影印で示された漢字で上記以外はいずれも崩し字とみなせる。たとえば図1にある **義** を取り上げる。この崩し字が『袖珍辞書』に出ているのは下記の1か所である。



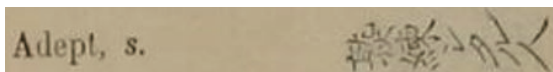
この影印は読みにくいので翻刻すると、次のようである。

A hungry belly has no ears.³

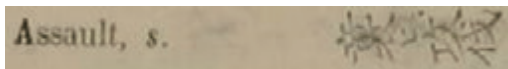
飢タル腹ハーツノ耳ヲ持ス 飢餓ノ時ニ当リテハ義理ヲ弁ルニ暇ナキ意

小さな字で書かれた注釈の中にある義の崩し字は東京大学史料編纂所がインターネットで公開している『電子くずし字字典データベース』にある該当の字に酷似している。

図1が影印で上げている漢字でまだ取り上げていないのは5字である。この5字は上記の『電子くずし字字典データベース』に類似の書体が見当たらないのだが、それらの字が出ている『袖珍辞書』のエントリーの意味から各々塾、襲、過、剛、書の崩し字だと見なせる。その字の出ているエントリーの影印を以下に示す。



塾：邦訳の先頭の漢字



襲：邦訳の先頭の漢字

³ “A hungry belly has no ears.” は英語の格言である。『袖珍辞書』ではエントリー **Belly** およびエントリー **Ear** の例文として出ている。ここで取り上げたのはエントリー **Ear** の例文の邦訳である。**Belly** の例文の邦訳は「飢タル腹ハ耳ガナイ 貧苦ニ迫レテ思惟スル能ハシ」である。

Amerce-ed-ing, v. a.	愚料之付也	過：邦訳の先頭の漢字
Adamant. s.	金剛鑽石	剛：邦訳の2番目の漢字
Receipt, s.	請取之請取書	書：邦訳の末尾の漢字

1.5. 考察

上述のことをもとに図1において異体字のセットを取り出して図2に示す。全体で61セットである。

図1には『袖珍辞書』に1度しか出ていない崩し字も複数個挙げているなど、『袖珍辞書』の異体字を調べる先行研究として価値を持っている。しかし上述したような4つの問題点がある。

図2. 図1にある異体字の組

厂		覘	孛	竟		解		应	渊	营	囧	异	異体字
雁		覩	学	覚		解		応	淵	營	因	異	正字
	奥	阜	幸		顾	幸舉	逆		机	皈歸	弃	朞	異体字
	興	鴨	幸		顧	挙	逆		機	歸	棄	期	正字
𦉳		寫	執	質	辞	尸	叅	裸雜	濟	灾	剡	國国	異体字
熟		写	執	質	辞	屍	参	雜	濟	災	刻	国	正字
坐	傳	乏	玠	吊	沉	揆	單	屮	撰撰	勢		𠂔	異体字
堂	伝	定	珍	弔	沈	探	单	属	撰	勢		所	正字
	綱	盟	伞	恣	报			備	𦉳	热	难	得	異体字
	網	盟	命	忘	報			備	𦉳	熱	難	得	正字
		駟	类	𦉳		𦉳	離	罗		𦉳			異体字
		驢	類	𦉳		留	離	羅		𦉳			正字

なお、図2に掲げたすべての異体字は『袖珍辞書』で使われているが、正字が使われていないのがある。下記の9字である。

雁、顧、挙、国、伝、靈、留、離、𦉳

言い換えると、これらの9字以外は『袖珍辞書』で正字と異体字が併用されている。

2. 『東京大学史料編纂所データベース異体字同定一覧』と『袖珍辞書』

『史料編纂所データベース異体字同定一覧』には1083組の異体字のセットが挙げられている。以下では『史料編纂所データベース異体字同定一覧』にある1つの親字とその異体字をまとめ

て「HI⁴異体字セット」ということにする。たとえば親字「参」とその3つの異体字「參、叁、叅」は1組のHI異体字セットである。

HI異体字セットが『袖珍辞書』でどのように使われているかを総括的に調べた。その結果は次のように分類できる。

- 分類-1

あるHI異体字セットのすべての漢字が使われているケースが186組ある。その一例だが、「囿」と「圍」がともに使われている。

そのうちの11組では、HI異体字セットに含まれていない異体字（以降、新異体字と称する）も使われている。その一例だが、「煙」と「烟」とともに新異体字「烟」が使われている。

- 分類-2

あるHI異体字セットの一部の漢字が使われているケースが536組ある。その一例だが、「𠂔」は使われているが、「𠂕」は使われていない。

そのうちの47組では新異体字が使われている。その一例だが、「營」は使われていないが、「營」は使われており、新異体字「營」が使われている。

- 分類-3

あるHI異体字セットのどの漢字も使われていないケースが361組ある。

ただし、そのうちの14組については新異体字が使われている。その一例だが、「𠂔」と「𠂕」は使われていないが、新異体字「𠂔」が使われている。

この分類をまとめて表1に示す。

表1.『袖珍辞書』と史料編纂所データベース異体字同定一覧（異体字セットの組の数）

	新異体字を使用	新異体字を不使用	小計
分類-1：あるHI異体字セットの全ての漢字を使用	11	175	186
分類-2：あるHI異体字セットの一部の漢字だけ使用	47	489	536
分類-3：あるHI異体字セットのどの漢字も不使用	14	347	361
合計	72	1011	1083

分類-1と分類-2の和である722組が『東京大学史料編纂所データベース異体字同定一覧』と一致している。つまり1083組中の722組なのでほぼ3分の2の割合である。

この分類にそって具体例を示す。なお、上述した先行研究の考察であきらかにした下記の諸点を活用した。

⁴ HI は東京大学の史料編纂所の英文名称 Historical Institute の略。

- 宋朝体は異体字とみなさず、明朝体の同字で示す。
- 崩し字は異体字とみなさず、親字で示す。
- 検証の便のために当該の親字、異体字が使われている1の例のエントリーを()内に示す。

これは上述の「叅(Capitulate)」に準じている。なお煩雑さを避けるために、『袖珍辞書』で同じ綴りのエントリーがない場合は品詞を示さない。また綴りが同じで品詞が異なるエントリーがある場合で当該の漢字がどちらにも出ている場合は品詞を示さない。品詞を示す場合は下記の略号で示す。

実名詞：s、動詞：v、形容詞／副詞:a。

表1の分類に沿って事例を影印で示して論ずる。

2.1. 分類-1 その1

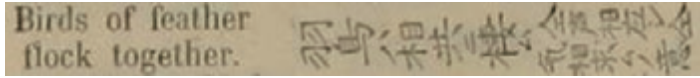
表1に示したように、HI異体字セットのある親字とその異体字のどれが使われているケースで、さらに史料編纂所データベース異体字同定一覧に出ていない新異体字も使われているのが11組ある。これらを表2に掲げる。

表2. HI異体字セットの親字とその異体字のどれをも使用し、
かつ新異体字も使っているケース

親字	異体字	新異体字
煙(Smoker)	烟(Flue)	烟(Hob)
応(Apt)	應(Banquet)	应(Birds of feather flock together.)
器(Decant)	器(China)	器(Decant)
抛(Diploma)	據(Proof)	據(Argument)
経(Versed)	經(Psalms)	經(Requiem)
軽(Outface)	輕(Peccadillo)	輕(Attinge)
実(Loyally)	實(Realty)	实(Loyalty)
処(Chancel)	處(Vacuum)	處(Dealing) 處(Nighness)
勢(Potency)	勢(Concurrent)	勢(Ability)
発(Creator)	發(Reek)	發(Discovery)
貌(Aspect)	貌(Visage)	貌(Appearance)

表2の内、特徴的な3件について述べる。

- 親字が「応」(Apt)、その異体字が「應」(Banquet)であるHI異体字セットに新異体字の「应」が加わっている。「应」は図1の最上段の右から5番目に出ているが、『袖珍辞書』では1か所で使われているだけである。その影印を下記に示す。

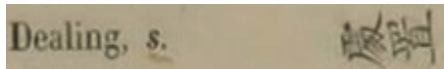


読みにくいので翻刻すると次のようである。

Birds of feather flock together. 羽鳥ハ相共ニ棲ム 全声相应シテ全氣相求ムノ意

これはエントリー Bird の例文であるが、「应」は小さなフォントで書かれた注釈の4番目の漢字である。

- b. 新異体字が2字つかわれているのが1組だけある。それは親字が「処」で、その異体字が「處」である HI 異体字セットであり、その新異体字は「處」と「處」の2つである。「處」と「處」の用例の影印を1つずつ以下に示す。

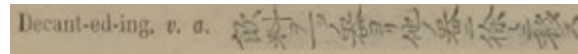


Dealing, s. 處置



Nighness, s. 近處

- c. 親字「器」とその新異体字「器」が併存している邦訳がある。その影印を下記に示す。



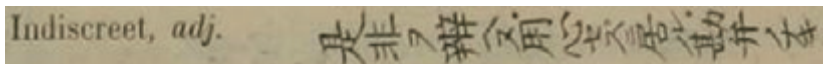
Decant-ed-ing, v. a. 飲料フーツ器ヨリ他ノ器ニ徐々ニ移ス

このように1つの邦訳に親字とその新異体字が併存しているのは、『袖珍辞書』の編纂に複数の人が関わって校正が繰り返されたことを示す痕跡と見なせる。

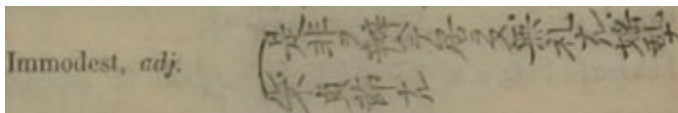
2.2 分類-1 その2

表1に示したように、HI 異体字セットの親字とその異体字のどれもが使われていて、新異体字の追加がないのが175組ある。それを表3に示す。大きな表なので文末に付す。

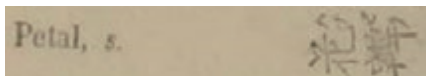
HI 異体字セットで親字とその異体字の個数が一番多いケースを取り上げる。親字が「弁」で、その異体字が「辨、瓣、瓣、辯」であり、合わせて5つの漢字からなる HI 異体字セットである。その用例を影印で以下に示し、影印の右側に当該の漢字を添える。



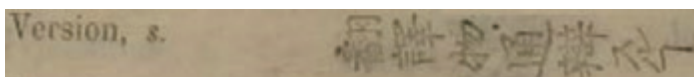
辨と弁



辨



瓣



辯

エントリー Indiscreet の邦訳に弁と辨が混在している。繰り返しになるが、これも『袖珍辞書』

の編纂に複数の人がかかわり校正が繰り返されたことを示す痕跡と考えられる。

2.3. 分類-2 その1

表1に示したように、あるHI異体字セットの親字ないしその異体字のどれかが使われているケースが536組あるが、そのうちの47組では新しい異体字が使われている。この47組を表4に掲げる。大きな表なので文末に付す。

1つのHI異体字セットで、その新異体字が2つ使われているのが3ケースある。それを親字：異体字：新異体字の形式で示すと次の通りである。

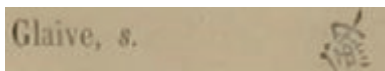
覚：覺：竟、覺 観：觀：觀、観 举：舉、舉：辛、举

ここで下線を引いた漢字、すなわちは覺、觀、举であるが、これらは『袖珍辞書』で使われていない。

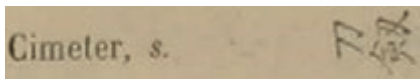
2.4. 分類-2 その2

あるHI異体字セットの親字ないしその異体字のどれかが使われているが、新異体字が使われていないのが489組ある。それを表5に掲げる（大きな表なので文末に付す）。検証の便のために『袖珍辞書』で使われている漢字には表5において、その漢字が使われているエントリーを付す。つまりエントリーが書かれていない漢字は『袖珍辞書』では使われていない。

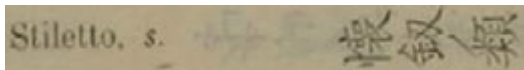
1例として異体字の語数が一番多いケースの親字「劍」を取り上げる。その異体字は「劍、劔、劔、劔、劔、劔」の6字である。親字を含めて7字の内で異体字である「劔、劔、劔」の3字が使われている。それらの影印を下記に示す、影印の右側に当該の漢字を挙げる。



劔の崩し字



劔：邦訳の2番目の漢字



劔：邦訳の2番目の漢字

表5では、「劍 劔 劔 劔(Glaive) 劔(Cimeter) 劔(Stiletto) 劔」と表記する。「劔、劔、劔」「劔、劔、劔」の3つの漢字を使い、他の4つの漢字を使わなかった理由は汲み取れない。

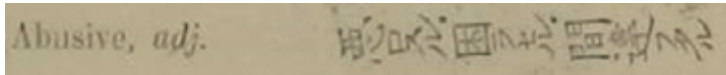
この「分類-2 その2」の489組のうちで親字を使わないで異体字を使っているケースが59組ある。比率では2割弱である。多くの場合、親字より異体字の方の画数が多い。その1例に親字「広」とその異体字「廣」があるが、「広」は『袖珍辞書』で使われておらず、画数の多い「廣」が133か所で使われている。親字と異体字の使い分けは木版の彫りやすさという単純な理由ではないと思える。

2.5. 分類-3

HI異体字セットの親字とその異体字のどれもが使われていないケースが361組あるが、その

うちの 14 組については当該 HI 漢字（親字）に対応する新異体字が使われている。それらを表 6 に示す。

1 例として表 6 の最初にあげた新異体字である悪が出ているエントリーの影印を以下に示す。



邦訳の最初の文字が悪の新異体字の𠂔である。𠂔はその異体字の悪とともに『袖珍辞書』で使われていない。𠂔や悪よりも𠂔の方が木版では彫りやすかったためかもしれない。

表 6. HI 異体字セットの親字とその異体字が使われておらず、新異体字が使われているケース

親字	異体字	新異体字	親字	異体字	新異体字
悪	𠂔	𠂔(Abusive)	敷	𠂔	𠂔(Difficult)
栄	榮	榮(Prosperity)	裏	裡	裏(Backdoor)
鶯	鶯 鶯	鶯(Nightingale)	涙	泪	涙(Eye-drop)
絵	繪	繪(Dye, s.)	冤	冤	冤(Martyr, s.)
灌	灌	灌(Clyster)	艱	𠂔	艱(Aching)
陥	陷	陷(Unshed)	鬢	鬢 髻 鬢	鬢(Tress)
螢	螢	螢(Glow-worm)	芒	𠂔	𠂔(Ile)

3. 『袖珍辞書』独自の親字と異体字

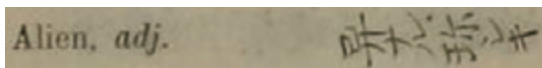
『袖珍辞書』には東京大学史料編纂所データベース異体字同定一覧に含まれていない親字とその異体字が使われている。参照の便のために、これを新親字とその新異体字と呼ぶ。

図 1 に出ている異と𠂔、盟と盟などが、『袖珍辞書』で使われている新親字とその新異体字の例になるが、それらを含めて 80 組ある。それらを文末の表 7 に掲げる。

1 例として異と𠂔が使われているエントリーの影印を以下に示す。

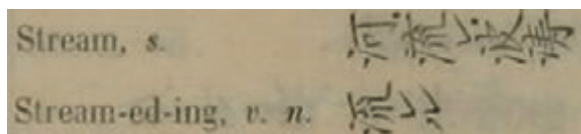


異：邦訳の最初の漢字



𠂔：邦訳の最初の漢字

隣り合ったエントリーで新親字と新異体字が使い分けられている 1 例を以下に示す。新親字「流」と新異体字「𠂔」の例である。



𠂔：邦訳の 2 番目の漢字

𠂔：邦訳の先頭の漢字

隣り合ったエントリーで親字と異体字、新親字と新異体字が使い分けられているケースは数多くみられる。これも『袖珍辞書』の編纂が複数者で行われ、校正が繰り返された痕跡と考え

られる。

4. 『袖珍辞書』とシンガポールの漢字

4.1. 『袖珍辞書』が使っているシンガポールの漢字

中国で生まれた漢字は日本をはじめとして東南アジアで使われている。そして日本が国字を作ったように諸国でいくつかの漢字が作られた。シンガポールで作られた漢字を新加坡漢字というが、それは下記の11種である(谢世涯 1989)。下記で()内は該当する中国の漢字である。

姿(要)、仗(信)、囟(窗)、兒(貌)、咀(嘴)、畱(留)、

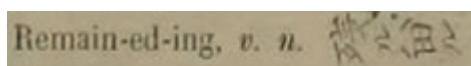
荅(答)、覆(覆)、祚(算)、解(解)、杀(剎)

たとえばシンガポールでは「要」ではなく「姿」を使う。

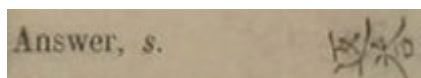
この中で、兒、畱、荅、解の4字が『袖珍辞書』で使われている。ただし畱は崩し字になっており、解は上述したように宋朝体になっていて角篇が角篇である。解の用例の影印は1.(1)に示したので、ここでは兒、畱、荅の用例の影印を以下に示す。



兒：邦訳の最後の漢字⁵



畱：邦訳の3番目の漢字で畱の崩し字



荅：邦訳の2番目の漢字

『袖珍辞書』で畱が71か所で使われているが、いずれもここで示した崩し字である。

4.2. 『袖珍辞書』が使っているシンガポールの簡化字

中国では1950年代になって簡素化した字体の漢字を推奨するようになった。その漢字を簡化字と言い、簡体字と俗称される。それぞれの簡化字には対応する繁体字があり、異体字と親字の関係である。

簡化字には古くから使われてきたものがあり『袖珍辞書』に少なからず出ている。たとえば図1、図2に出ている「灾、昇、罗」は現在では簡化字である。

さてシンガポールでも中国本土に準じて1969年に簡化字を定めたが、一部について中国とは違った字を使っている。その中国とは違ったシンガポールの簡化字で『袖珍辞書』で使われているのが下記のようにある。

搯(拨)、鬥(斗)、廢(废)、国(国)、澆(泼)、亜(亞)、昏(纸)

ここで()内は中国の簡化字であるが、これらは『袖珍辞書』では使われていない。そして、これらの漢字が使われてきた歴史的な理由でこのようなシンガポールの簡化字は中国のそれとは違っていると考えられる。

⁵ 兒はエントリー Visage でのみ使われている。複数の『袖珍辞書』で調べたが、どれも兒の字はこの影印のように印字がかすれている。

なお図 1、図 2 に出ている国はシンガポールの簡化字である。繰り返しになるが、国の字は『袖珍辞書』では使われていない。

新加坡漢字やシンガポールの簡化字はマレー半島からインドネシアにかけて使われてきた。オランダの東インド会社はインドネシアのジャワに拠点を置いて日本と交易したが、『袖珍辞書』で使っている上記の漢字はこの交流のなかで日本に入ってきたのかもしれない。歴史家のご指導を賜りたい。

5. まとめ

東京大学史料編纂所データベース異体字同定一覧をもとにして『袖珍辞書』で使われている異体字を考察し、表 2 から表 7 までの 6 つの表にまとめた。その要点は下記の通りである。ここで () 内は異体字のセットの個数である。

表 2 : HI 異体字セットの親字とその異体字のどれをも使用し、かつ新異体字も使っているケース(11)

表 3 : HI 異体字セットの親字とその異体字のどれをも使っているが新異体字の追加がないケース(175)

表 4 : HI 異体字セットの親字とその異体字のいずれかが使われていて、さらに新異体字が使われているケース(47)

表 5 : HI 異体字セットの親字とその異体字のいずれかが使われているが、新しい異体字は使われていないケース(489)

表 6 : HI 異体字セットの親字とその異体字が使われておらず、新異体字が使われているケース(14)

表 7 : HI 異体字セットに入っていない新親字とその新異体字が使われているケース(80)

これらの表で取り上げた異体字セットの組は総計で 816 組である。多くの異体字セットが使われているのは『袖珍辞書』が言葉の集大成であるためと考えられる。

816 組の中の 722 組は東京大学史料編纂所データベース異体字同定一覧に依っている。つまり 1083 組中の 722 組なのでほぼ 3 分の 2 の割合である。残りの 94 組は東京大学史料編纂所データベース異体字同定一覧に出ていない。

あるエントリーの邦訳に親字とその異体字が併用されていることがあり、また隣接するエントリーで併用されていることもある。これは『袖珍辞書』の編纂が複数人で行われ、校正が繰り返し替えされたことの痕跡と考えられる。

シンガポールで使われていて現在の日本では使われていない漢字が『袖珍辞書』で使われている。異国との交流に強い制限があったいわゆる鎖国の時代に漢字で交流があったと考えられる、識者のご指導を仰ぎたい。

なお詳論を避けたが、木版印刷であることもあり崩し字が使われており、また宋朝体の漢字も使われている。

これらのことは『袖珍辞書』の編纂者の漢字受容の高さを示しているばかりでなく、この辞

書の利用者である幕末知識人もそうであったと考えられる。

参考文献

東京大学史料編纂所 編『電子くずし字字典データベース』

<http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller> (2020/04/24)

東京大学史料編纂所 編『東京大学史料編纂所データベース異体字同定一覧』

http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/itaiji_list.jsp (2020/04/24)

堀達之助編 (1862) 『英和对訳袖珍辞書』江戸：洋書調所。

三好彰 (2018) 『英和对訳袖珍辞書』における異体字の考察『東京大学言語学論集』40, pp.295-305.

名雲純一編 (2007) 『英和对訳袖珍辞書 原稿影印』高崎：名雲書店。

谢世涯 (1989) 『新中日简体字研究』北京：语文出版社

杉本つとむ 編 (1981) 『江戸時代 翻訳日本語辞典』東京：早稲田大学出版部, p. 826.

表 3. HI 異体字セットの親字とその異体字のどれをも使っているが新異体字の追加がないケース

親字	異体字	親字	異体字
圀(Contour)	圍(Ambit)	弾(Ball)	彈(Elasticity)
為(Deem)	爲(Do)	痴(Idiotism)	癡(Idiocy)
医(Cephalic)	醫(Doctor, s.)	昼(Afternoon)	晝(Midday)
因(Cause, s.)	厶(Across)	鑄(Fuse)	鑄(Caster)
鬱(Chagrin, s.)	鬱(Melancholy)	徵(Pointing)	徵(Criterion)
円(Pea)	圓(Circus) 圓(Sextant)	腸(Tripe)	腸(Catgut)
堰(Drain, s.)	堰(Sluice, s.)	沈(Dive)	沉(Subside)
縁(Border)	緣(Hem, s.)	珍(Curiosity)	珍(Remarkable)
往(Goer)	往(Passport)	壺(Jug)	壺(Gallipot)
鷗(Cob)	鷗(Sea-gull)	盜(Robber)	盜(Steal)
仮(Shed, s.)	假(Mask)	灯(Phantasmagoria)	燈(Lamp)
解(construe)	解(Construe)	当(Capable)	當(Bodice)
蛎(Dredge)	蠣(Oyster)	禱(Deprecate)	禱(Crave)
鈎(Gaff)	鈎(Clasp)	逃(Outstrip)	逃(Allocation)
楽(Music)	樂(Jollily)	同(Dissimilar)	仝(Same)
勸(Succeed)	勸(Commend)	独(Gig)	獨(Individual)
寛(Ample)	寬(Lenity)	誦(Overread)	讀(Overread)
館(Tavern)	館(M. P.)	届(Carry)	屆(Suffice)

奇(Handsome)	奇(Admirable)
期(Age)	朞(Anniversary)
棄(Oust)	弃(Abject, a.)
歸(Resail)	歸(Regress) 皈(Chargeably)
氣(Air, s.)	氣(Pet, s.)
宜(Consist)	宜(Moderate, a.)
叫(Call)	叫(Barker)
峽(Channel)	峽(Sound, s.)
挾(Clip)	挾(Notch, s.)
教(Apprize)	教(Instruct)
狹(Alley)	狹(Lane)
群(Crowd, v.)	羣(Crowd, s.)
繫(Arrest)	繫(Road)
莖(Purpose)	莖(Halm)
決(Award, s.)	決(Decide)
儉(Spare)	儉(Economy)
權(Strength)	權(Attorney)
險(Arduous)	險(Ascent)
減(Cut)	減(Decrease)
効(Medicinal)	効(Effect, s.)
拘(Politic)	拘(Miff)
号(Signal, s.)	號(Character, s.)
黑(Black)	黑(Dun, a.)
歲(Salary)	歲(of age) 歲(Minor, s.)
濟(Economist)	濟(on payment)
碎(Crumble)	碎(Crumble)
劑(Detergent)	劑(Cleanser)
財(Hanaper)	賤(Comprehensiveness)
冊(Tome)	冊(Pamphlet)
姊(Fostersister)	姊(Sister)
糸(String)	絲(Spring)
紙(Gazette)	帛(Paper)

惱(Aggrieve)	惱(Bitterly)
腦(Chimera)	腦(Brain)
廢(Cancel)	廢(Annul)
輩(Skipper)	輩(Condisciple)
麥(Barley)	麥(Rye)
潑(Gay)	潑(Pertly)
醃(Barm)	醃(Yeast)
髮(Hair)	髮(Notch, v.)
罰(Sentence)	罰(Damn)
冰(Ice)	冰(Scate)
富(Rich)	富(Lottery)
仏(Ethnic)	佛(Citron)
變(Vary)	變(Inconvertible)
弁(Indiscreet)	辨(Indiscreet) 辨(Immodest) 瓣(Petal) 辯(Version)
歩(Walk)	步(Pitapat)
穂(Thrash)	穂(Corn-stalk)
萌(Rise, v.)	萌(Accrue)
豊(Fertile)	豊(Wealthily)
冒(Rheum)	冒(Fluxion)
頰(Cheek)	頰(Jole)
本(Example)	本(Headless)
翻(Translate)	翻(Inverse)
毎(Always)	毎(Hourly)
万(Fatalism)	萬(Million)
満(Satisfy)	滿(Highwater)
無(Fig)	无(Secure)
面(Face, s.)	面(Blush)
藥(Medicinal)	藥(Gun-powder)
訳(Liable)	譯(Interpret)
予(In my opinion)	豫(Suppose)
余(Too)	餘(Glut)
与(Give)	與(To give ear)

兒(Child)	兒(Babe)
質(Quality)	質(Pawn)
舍(Aviary)	舍(Barn)
煮(Cookery)	煮(Boiler)
积(Shameless)	釋(Sophistry)
寿(Vivacious)	壽(Overlive)
従(According)	従(Follow)
獸(Beast)	獸(Shrew)
証(Credentials)	證(Certificate)
乘(Carriage)	乘(Race-horse)
場(Career)	場(Career)
状(Habit, s.)	狀(Turn, s.)
釀(Sweetener)	釀(Brew)
触(Placard)	觸(Contact)
唇(Lip)	脣(Flew, s.)
垂(Drivel, v.)	垂(Burr)
粹(Cleanse)	粹(Pure)
酔(Bousy)	酔(Sea-sick)
髓(Marrow)	髓(Homage)
数(Algorithm)	數(Number)
声(Accent, s.)	聲(Aloud)
説(Opinion)	説(Argue)
窃(Steal)	竊(Furtive)
船(Aboard)	舩(Brig)
蘇(Resurrection)	蘇(Arise)
壮(Fresh, a.)	壯(Restorative, s.)
搜(To look for)	搜(Grope)
争(Warfare, s.)	爭(Scamble)
葬(Funeral)	葬(Entomb)
騒(Storm, s.)	騷(Uproar)
続(Consequent)	續(Contexture)
舵(Rudder)	柁(Whip-staff)
帯(Sash)	帶(Belt)
滞(Falter)	滯(Loiter)
扨(Pitch, v.)	擇(Selection)

揺(Ripple)	搖(Waver)
謡(Sing)	謠(Monody)
裸(Naked)	裸(Bare)
頼(To stand by)	賴(To stand by)
略(Caret)	畧(Abridge)
竜(Dragon)	龍(Fire-engine)
両(Parents)	兩(Cock, s.)
糧(Starve)	糧(Provision)
隣(Abut)	鄰(Neighbour)
類(Sort)	類(Spawn, v.)
励(Revivify)	勵(Ardent)
礼(Pilgrim)	禮(Bow, s.)
曆(Almanac)	曆(Kalendar)
歴(History)	歷(Stroll)
恋(Lover)	戀(Suitor)
籠(Basket-maker)	籠(Basket)
蠟(Blare)	蠟(Braze)
録(Addition)	錄(Recorder)
嗅(Ferreter)	鼻(Vent, v.)
嘔(Loathe)	呕(Nausea)
埒(Tarrier)	埒(Misuse)
攣(Spasm)	牽(Crick)
虱(Louse)	蝨(Cock-hafer)
蟄(Frog)	蟻(Toad-stone)
鏟(File)	鈎(Pindust)
闊(Capable)	濶(Bulky)
驢(Donkey)	駱(Zebra)
別(Catalogue)	別(Difference)
告(Announce)	告(Notify)
撃(Attack)	擊(Shock)
晚(Evening)	晚(Curfew)
得(Attain)	得(Obtain)
産(Industry)	産(Abort)
脱(Disrobe)	脫(Disrobe)
節(Thrift)	節(Accent)

沢(Bourn)	澤(Lustre)	湧(Estuate)	涌(Upspring)
達(Dandy)	達(Beau)	遙(Walking)	遙(Walker)
胆(Bile)	膽(Church is over.)		

表 4. HI 異体字セットの親字とその異体字のいずれかが使われていて、
さらに新しい異体字が使われているケース

親字	異体字	新異体字
営	營(Highwrought)	营(Build)
穩(Placidly)	穩	穩(Pacify)
嘩(Scold)	譁	叱(Quarrel)
会	會(Meeting)	會(Assembly)
廻(Invert)	廻(Wind, v.) 迴	廻(Wind, v.)
覺(Sensible)	覺	竟(Common-place-book) 覺(Sensation)
竈(Range, s.)	竈 灶	竈(Furnace)
觀(Speculation)	觀	觀(Viewer) 観(Notion)
間(Associate, s.)	間	间(Bed, s.)
雁	鴈(Eider) 鴈	厂(Birgander)
喜(Cheer)	喜 禧 囍	喜(Festivity)
挙	舉(Wanton, v.) 舉(Whim, s.)	举(Aclamatory) 举(To veer aloft)
魚(Fish, s.)	鱼	鳎(Gilthead)
橋(Bridge)	橋 桥	橋(Draw-bridge)
靴(Shoe, s.)	鞮	屨(Frost-nail)
賢(Sensible)	叡	賢(Acute)
嚴(Hard)	嚴	嚴(Algor)
国	國(Abroad) 囯 囷 國	国(Bilander)
蚕(Aurelia)	蠶	蠶(Silk-worm)
辞(Dictionary)	辭	辞(Noun)
収	收(Shrink, s.)	収(Constrict)
臭(Fetor)	臭	臭(Noisome)
讓(Heritable)	讓	讓(Assign)
寝(Bed)	寢	寐(Hammock)
戦(Battle)	戰	戰(War)
鼠(Mouse)	鼠	鼠(Mice)
搔	搔(Unraked)	搔(Scratch)
総(Fringe)	總(Tassel) 總 總	捻(Oecumenical)

属(Family)	屬	屑(Appendant)
鍛(Forge)	煅	鍛(Farrier)
鉄	鍔(Crow, s.) 鐵(Nut) 鐵	欽(Broach)
点(Dot)	點	點(Acme)
闘(Striving)	鬪	鬥(Battle, s.)
突(Just, s.)	突	突(Abrupt)
囊	囊(Bag)	囊(Cartouch)
拔(Choice)	拔	拔(Pliers)
髭(Mustache)	髭	鬚(Whisker)
筆(Blacklead)	笔	華(Crayon)
誉	譽(Halloo, v.)	譽(Applaud)
養(Educate)	養	養(Nourish)
楫(Paddle, s.)	楫	楫(Larboard)
雖(Though)	虽	雖(Although)
難(Grained)	巨	難(Critical)
寧(Modest)	寧	寧(Kindly)
奕(Gamble)	弈	拏(Crick)
執(Execute)	執	執(Catacomb)
閏(Bissextile)	閏 壬	閏(Leap-year)

表 5. HI 異体字セットの親字とその異体字のいずれかが使われているが、新異体字は使われていないケース

親字	異体字	親字	異体字
亜(British)	亞	鐸(Bell, s.)	鈸
啞(Dumb)	啞(Dummy) 瘡	豎(Lengthwise)	豎
圧	壓(Compress)	狸(Badger)	狸
庵(Convent)	菴 菴	単(Number, s.)	單(Sole, adj.) 单
案(Pilot)	桡	担	擔(Shouldered)
育(Foster)	毓	耽(Addict)	耽
一(Accord)	弌	団	團(Hassok)
姻(Remarry)	媼	断(Decide)	斷
飲(Drink)	飲	恥(Discredit)	耻
淫	姪(Lasciviousness) 淫(Lewd)	稚(Childhood)	穉(Spelter) 穉
隠(Furtive)	隱	遅	遲(Late)
陰(Umbrage)	阴 陰(Sunless)	蓄(Reservation)	穡

厩(Hostler)	廐 廐 廐	虫	蟲(Zoophyte)
曳(Haul)	曳	猪(Hog)	豬
穎	穎(Nimble)	帳(Cashbook)	賬
英(English)	僎	庁	廳(Confiscable) 廳(Appeal)
衛(Satellite, s.)	衛	町(Townsmen)	學
詠(Tragedian)	咏	聽	聽(Audibly)
駅	驛(Inn, s.)	長(Length)	長
焰	焰(Blaze)	鎮(Nepenthe)	鎮
艶(Valentine)	艶 豔 豔	搨(Nab)	擱
鉛(Lead, s.)	鉛	鶴(Crane)	雀 鷺 鷺 鷺
塩(Salt, s.)	鹽	堤(Beach)	堤
汚(Dirt)	汙	碇(Mooring)	碇
奥(Waiting-maid)	奧	蹄(Rat-trap)	蹠
横(Across)	橫	泥(Mire)	坭
黄(Brass)	黃	填(Overfill)	填
岡(Ascent)	壘 崗	纏	纏(Frontlet)
沖(Offing)	冲	転	轉(Turn)
温(Meek)	溫	顛(Cranium)	顛
下(Down, a.)	下	伝	傳(Contagion)
価	價(Rate)	兎(Hare)	兔(Vase) 菟
花(Garden)	花	土(Argil)	土
蚊(Musquitto)	蚤 蠱 蠱	党(Party)	黨
画(Dauber)	畫(Dauber) 畫	島(Island)	島 嶋 隴
臥	臥(Tester)	涛(Stream, s.)	濤
回	回(Calif) 回(Rotary)	統(President)	統
壊(Scurvy, s.)	壞	働(Act)	働
怪(Monster)	恠	道(Way)	道
懐(Dagger)	懷	徳(Benefit, s.)	德(Illustriously) 惠
界(World)	界	吞	吞(Absorb)
蟹(Lobster)	蟹	内(Inner)	內
開(Open)	开	繩(Brace)	繩
階(Stair)	階	二(Two)	二
貝(Mussel)	貝	迄(Abreast)	迤

概(Myriad)	槩(Well-nigh) 概	蕙(Leek)	韭
碍(Restraint)	礙	妊(Going)	妊
蓋(Cover)	盖 蓋(Covering)	野(Field)	埜 埜 埜
柿(Sycamore)	柿	罵(Abuse)	罵
拏	擴(Scatter)	拜	拜(Adore)
攪(Pancake)	攪	敗(Rot)	敗
殼(Nutshell)	殼 壳(Egg-shell)	杯	盃(Goblet) 栴
角(Horn)	角	梅(Sloe)	楸
学(Academy)	學 孝(Scholar) 教 教	壳	賣(Sale)
兜	兜(Burganet)	蠅(Flesh-fly)	蠅 蠅
釜	釜(Boiler)	剥(Flay)	剥
鎌(Reaper)	鎌 剗	迫(Busy, a.)	迫
柏(Pine)	栢	鉢(Dish, s.)	鉢
粥(Pappy)	粥	筏(Raft)	楫
乾(Dry)	軋 乾	飯(Trencher)	飴
卷	卷(Wrap)	蛮(Barbaric)	蠻
幹(Timber, s.)	幹	秘(Secret)	祕
歛	歛(Delectation)	備(Provide)	備 備(Bodily) 備
諫	諫(Caution)	廟(Oratory)	廟 廟
鑑(Mirror)	鑒 鑒	浜	濱 濱(Beach)
関(Relation)	關 關	賓	賓(Inmate)
巖	巖(Cliff) 崑	瓶(Decanter)	瓶
顔(Face, s.)	顔	普(Publicity)	普
既(Already)	既	膚(Brunette)	肤
棋	碁(Chees)	譜(Note, s.)	譜
規(Rule)	規	舞(Visit)	舞
亀(Tortoise)	龜 龟	部(Inly)	部
偽(Craft)	偽	風(Wind, s.)	風 風 風
戯(Clown)	戲 戲	淵(Precipice)	淵 淵(Pit, s.)
蟻(Ant)	螳	扠	拂(Brush)
却(Restore)	卻	併(Though)	併
脚(Leg)	腳	幣(Mint)	幣
丘(Hill)	丘	並(Alley)	並
窮(Physics)	窮 匱 穷	閉(Close)	閉

糾	糺(Convict, s.)	篋(Spatula)	篋
旧(Old)	舊	辺(Sea-built)	邊 邊(Margin)
去(Elope)	去	舗	舗(Courtyard) 舗(Build)
虚(Slight, a.)	虚 虚	宝(Treasure)	寶 寶(Brooch) 珺 璣
京(Catarrh)	京	峰	峯(Pinnacle)
協	協(Moral, a.) 叶	法(Awkward)	灑
強(Accent)	強(Strong) 勢 舉	蜂(Bee)	蠶
胸(Bosom, s.)	胷	褒(Magnify)	褒
郷(Seneschal)	郷	没(Nutgall)	沒
曉(Prime, s.)	曉	凡(Preamble)	凡
琴(Organ)	琴 琴	麻(Flax)	麻
筋(Tendon)	筋 筋	恣(Arbitrarily)	儘
区	區(Difference)	脈(Pulse)	脉(Saltation) 脈
驅	驅 駟(Gallop) 馭	妙(Queer)	妙 妙
窟(Cave)	窟	夢(Dreamer)	梦 夢
桑(Mulberry)	桑 桑	婿(Son-in-law)	婿 聾(Paraphernalia)
鋤(Dibble)	鋤	明(Clear)	明
薰(Olfactory)	薰	麵(Roller)	麵 麪 麵 糰
径(Diameter)	徑 逕	猛(Brutal)	勳
惠(Endue)	惠(Benefaction) 德 德	默(Mutely)	默(Obmutescence) 嘿
携(Bring)	攜 攜	餅(Bread)	餅
溪	溪(Vale) 谿	矢(Dart)	笑
繼(Stilt)	繼	柳(Willow)	柳(Sallow) 桺
頸(Throat)	頸	蕞	蕞(Asquint) 蕞(Squint)
鷄	鷄(Cock, s.) 雞(Spanner)	勇(Bravery)	勳
芸(Rue)	藝(Proficient) 秬	様(Adequate)	様
欠(Defect)	缺 缺	耀(Glaring)	耀

劍	劍 劒 劒(Glaive) 劒(Cimeter) 劒(Stiletto) 劒	踊(Upspring)	踴
圈	圈(Circle, s.)	陽(Sunny)	阳 陝
檢	檢 檢(Muster)	来(Come)	來
獻	獻	雷(Thunder)	靄
顯	顯	乱(Ravage)	亂
驗	驗(Effect, s.) 驗	覽	覽(Reading)
鹼	鹼(Suds) 碱 鹹 鹹(Brackish)	李(Plum)	籽
原	原	梨(Pear)	梨
袴	袴	溜(Cistern)	漚
股	股	留	留(Remain) 留
虎	虎	涼	凉(Coldly)
鼓	鼓(Fiddle) 鼓	獵	獵(Soho)
吳	吳 吳	瞭	瞭
悟	忪	緑(Green)	綠
侯	侯	瑠(Drama)	瑠
光	光 光	隸(Slavery)	隸
広	廣(Wide)	靈	靈(Ghost) 灵 霽
恒	恆	齡	齡
浩	濶	炉	爐(Censer)
稿	稟 藁 藁	勞	勞 勞(Harass)
耕	耕	朗	朗
鋳	鑛(Smelt, v.)	樓	樓(Belfry)
砒	礦(Mine, s.)	和	和
高	高	湾	灣
劫	劫(Millennium) 劫 劫	碗	碗
穀	穀(Corn, s.) 穀	僭	僭(Arrogate)
昏	昏	割	割 割(Tattoo)
鎖	鎖 鎖	厠	厠
災	灾(Evil, s.) 灾	噪	噪
柵	柵	嚏	嚏(Sneeze)
策	策	壘	壘

桜	櫻(Cherry)	夾(Oleanter)	夾
殺(Kill)	煞	佞	佞(Courtier)
雜(Trifle)	雜(Weed) 襍	騙(Hoax)	嫩
晒(Bleach)	曬	屏(Scene)	屏
三(Three)	弍	崑(Blackamoor)	崑
傘(Umbrella)	伞 伞	崙(Blackamoor)	崙
參(Madder)	參 參 叅(Noviciate)	嵌(Mosaic)	嵌
棧(Scaffold, s.)	棧	彗(Comet)	彗
讚(Celebrate)	讚	徊(Ramble)	徊
贊(Encomiast)	贊	悵(Jealousy)	悵
餐(Supperless)	飡	愧(Shamefaced)	媿
殘(Brutal)	殘	懺	懺(Confess)
四(Four)	三	捏	捏(Dough)
視(Espy)	眎 眎 眎	攫(Budge, s.)	攫
齒(Dental)	齒	斟(Injudicious)	斟
事(Picnic)	事(Picnic) 叟	朶(Wattle, s.)	朶
時(Time)	时 晷	榴(Grenade)	榴
爾(Ye)	尔(Erin) 尔	縱(Fir)	枞
濕(Dampish)	濕(Damp, s.) 溼	檠	檠(Offset)
蕊	藜(Chive) 葦 藜	櫟	櫟(Mast)
写(Copier)	寫(Depict) 寫	歟	坎(Tomtit)
蛇(Boa)	虵	氈	氈 氈(Carpet)
守(Defense)	守	滾(Circumvolve)	滾
呪	咒(Imprecate)	澳(Basin)	灣
秋(Autumn)	秋 穉 穉	熏	燻(Smutty)
衆(Crowd, s.)	禾 眾	燼	燼(Cinder)
讐	讎(Reprisal)	猩(Cochineal)	猩
蹴(Kick)	蹙	璫(Agate)	璫
澁(Acid)	澁 澁	疆(Precinct)	壇 臺 疆
縱(Although)	縱	疣(Wart)	疣
準(Level)	準	瘤(Cake, s.)	瘤
嘗	嘗(At no time)	癭(Hump)	癭
将(Admiral)	將	癇	癇(Epilepsy)
昇(Rise)	昇	眷(Family)	眷

松(Pine)	柰 柰 柰 柰	稟	稟(Temperament)
焼(Burn)	焼	筐(Hutch)	筐
照(Reflect)	照	籐(Cane, s.)	籐
称(Plural)	稱(Dame) 稱	絆(Bracket)	絆
醬(Winter-cherry)	醬	罌(Poppy)	罌
上(Above)	上	羈(Spontaneous)	羈 羈(Chain, v.)
剩(Slack, s.)	剩	脾(Spleen)	脾
条	條(Item, s.)	膾	膾(Pessary)
浄(Clean)	淨	臘(Gammon)	臘
畳	疊 疊 疊(Jointstool) 畳(Fold, v.)	莓(Strawberry)	莓
飾(Attire)	飾(Accoutre) 飾	莢(Beancod)	莢
職(Business)	職	藜(Caltrops)	藜
伸(Flexor)	伸	蛛(Spider)	蛛
審 (Circumlocution)	柔	謫(Outcast, s.)	謫
慎(Forbear)	慎	蹶(Hobble)	蹶
真(Convex)	眞	鉈	鉈(Jointer)
鞞	鞞 鞞(Knot) 鞞	鑽	鑽(Adamant)
尽(Eat)	盡	鬧(Clamour, s.)	鬧
酢(Eisel)	醋	韜(To salve the appearances)	韜
図(Chart)	圖(Symbol) 圖 圖	韻(Rhyme)	韻(Scan) 勻
厨(Scullion)	厨 厨	頤	頤(Mazard)
水(Water)	水	飄(Hover, v. 1)	飄
枢	樞(Pivot)	騾(Mule)	騾
雛(Chick)	雛	驕(Crest)	驕
杉(Cedar)	杉 杉	鱸(Haddock)	鱸
澄(Skim)	澄	鳧	鳧(Decoy-duck)
世(World)	世 世	鴉(Daw)	鴉
瀬(Channel)	瀬	鴉(Howlet)	鴉
是(Discreet)	是	鵝	鵝(Goose)
整(Dispose)	整	鵞	鵞(Palate)
晴(Lucid)	晴	役(Actor)	役
棲(Uplander)	栖 棲(Wood-pigeon)	慢(Boast)	慢

清(Clear)	清
青(Indigo)	青
静(Calm)	靜
齐(Oddly)	齊(Closet, s.) 叁 齋
税(Tax)	稅
脆(Brittle)	脆
撰(Regent, s.)	攝
絶(Permanent)	絕
專(Addict)	專
浅(Shallow)	淺
潜(Wait, s.)	潛(Duck) 潛
線(line, s.)	綫
織	織 織(Fibre)
賤(Contempt)	賤
錢(Cash)	錢(Florin)
前(Before)	前
善(Good)	善
曾(Never)	曾
双(Mutual)	雙
插	插 插(Parenthesis)
巢(Nest)	巢
瘦(Gaunt)	瘦(Leanly) 瘦
窓(Window)	窗 牕 窓 窓
聰	聰(Sanity) 聰 聰
莊(Majestic)	莊 庄 庄
装(Decoration)	裝
走(Runner)	走
增(Increase)	增
臟(Bowel)	臟
藏(Savings-bank)	藏
即(Namely)	即
卒(Soldier)	卒
多(Many)	多
橢(Oval)	橢

兌	兌
(Westnorthwest)	
戮(Butchery)	戮
廿(Christmas)	廿
率(Conduct, v.)	率
艸(By-word)	艸
膝(Knee)	膝
邑(Hamlet)	邑
奸(Subreptitious)	奸 姦(Stupration)
尚(Bishop)	尚
屢	屢(Frequence)
并(Calendar)	并
於(Into)	於
校(College)	校
槌(Hammer)	槌
撲(Strife)	撲
斗(Funnel)	斗
櫃(Hutch)	櫃
毀	毀(Railer)
嗽(Cough)	嗽
恢(Restore)	恢
盆(Salver)	盆
示(Assign)	示
年(Year)	年
牢(Prison)	牢
算(Enumerate)	算 算(Arithmetic)
芽(Bud)	芽
緒(Together)	緒
承(Satisfaction)	承
暫(Somewhile)	暫
鳳(Pine-apple)	鳳
麴(Malt-kiln)	麴
簡(Short)	簡
園(Farmer)	園 苑(Paddock, s.)
歌(Song)	歌 哥(Outparter)

駄(Horse-load)	駄	旗(Banner)	旗 旗(Bunting)
体(Body, s.)	軀(Mollusk) 體 體(Fluid, s.) 體	競(Scamble)	競(Rival) 競
堆(Mow)	埧	跡(Trace)	蹟(Issue) 迹
对	對(Pair)	牆	牆(Outwall) 牆(Unwalled)
袋(Pocket)	袋	郎(Bridegroom)	郎
台	臺(Table)	悦(Exult)	悅
滝	瀧(Cascade)	惧(Awe)	懼
卓(Table, s.)	桌		

表7 HI 異体字セットに入っていない新親字とその新異体字が使われているケース

新親字	新異体字	新親字	新異体字
逢(Meeting)	逢(Affront, v.)	答(Respond)	荅(Answer)
異(Exotic)	异(Alien, a.)	踏(Trample)	蹈(Rhyme)
羽(Feather)	羽(Tufty)	堂(Temple)	坐(Hamlet)
遠(Syncope)	遠(Remotely)	葱(Shalote)	蔥(Scallion)
過(Blamelessly)	過(Pretermit)	熱(Heat)	热(Ague)
鴨(Mallard)	鳥(Curlew)	念(Aspire)	念(Aspiration)
詰(Pudding)	詰(Boxer)	能(Talent)	能(Elocution)
逆(Rascal)	逆(Disobey)	馬(Harness, v.)	馬(Harness, s.)
宮(Taurus)	宮(Palace)	背(Deface)	悖(Crossgrained)
興(Mediaeval)	興(Fit, s.)	番(Unwatched)	番(Hinge)
熊(Fork, s.)	熊(Cynosure)	卑(Ungenerous)	卑(Puisne)
稽(Ludicrous)	稽(Rogue)	微(Microscope)	微(Fondness)
劇(Mime, v.)	劇(Opera)	美(Lady)	美(Madam)
健(Health)	健(Sound, a.)	品(Merchandise)	品(Effects)
絃(Unstring)	弦(Bow-string)	負(Gaming)	負(Prejudice)
功(Veteran)	功(Decision)	覆(Revolution)	覆(Housing,)
厚(Crassitude)	厚(Omelet,)	聞(News)	聞(Malapert)
幸(Happy)	幸(Accident)	報(Revenge)	報(Account, s.)
構(Richly)	構(Richness) 構(Splendid)	亡(Lose)	亡(Bill of mortality)
刻(Sculpture, v.)	刻(Sculpture, s.)	忘(Unforgotten)	忘(Forget)
惚(Reverie)	惚(Egotist)	魔(Demon)	魔(Disquieter)

今(Readmission)	今(Now)
屍(Croup)	尸(Coroner)
死(Death)	死(Mortuary)
修(Repair)	脩(Boarder)
宿(Inn)	宿(Stay)
熟(Adept, a.)	嫻(Adept, s.)
所(Would-be)	所(Corridor,)
笑(Comedy)	笑(Laugh)
撰(Excerpt)	撰(Eligible)
足(Inefficiently)	豆(Inefficiently)
族(Relation)	族(Cognate)
損(Loss)	捐(Forgive)
第(First)	第(Imprimis)
託(Pretence)	托(Unentertaining)
探(Probe)	揆(Impaste)
鳥(Purr)	鳥(Bird)
直(Deserve)	直(Diameter)
定(Concludent)	迄(Conclude)
等(Their)	等(Coequality) 抔(Bunting)

密(Accurate)	密(Mystery)
命(Life)	命(Director)
盟(Swear)	盟(Alliance)
妄(Fantasticalness)	妄(Phantom)
網(Meshy)	網(Caul)
問(Problem)	問(Mythology)
遊(Play)	遊(Rocker)
羅(Cloth)	罗(Ovation)
流(Stream, s.)	流(Stream, v.)
廉(Upright)	廉(Integrity)
脇(Flank)	脇(Scimitar) 脇(Indirectly)
倚(To rest on)	倚(Accumb)
蓄(Gripes of avarice)	蓄(Scaly)
愕(Shocking)	愕(Amazedness)
脛(Shin)	脛(Splay-footed)
迄(Hitherto)	迄(To mount to)
斂(Constrict)	斂(Contractile)
貌(Effeminacy)	貌(Feature)
撓(Provoke)	撓(Nourish)

Comprehensive Considerations on Variant Kanji Characters in the “Eiwa Taiyaku Shuchin Jisho” or the First Commercial English-Japanese Dictionary Published in 1862

Akira MIYOSHI

Keywords: The Commercial English-Japanese dictionary in the Edo Period in Japan,
kanji and its variants

Abstract

This is the second paper on variant Kanji characters in the “Eiwa Taiyaku Shuchin Jisho” or the first commercial English-Japanese dictionary published at Yedo, 1862. The previous paper was only concerned with the handwritten portions of the manuscript, which is about 1/30th of the dictionary. This paper covers the entire dictionary.

A Kanji character has several variants. The database provided by the Historical Institute of University of Tokyo includes 1,083 sets of Chinese character variants found in Japanese ancient documents.

The present author has found that there are 816 sets of Chinese character variants in the First English-Japanese Dictionary. Of these, 722 sets are found in the variant database of the Historical Institute and 94 are new variant sets to be added.

Some Chinese characters of Singapore origin and simplified Chinese characters used only in Singapore are found in the English-Japanese Dictionary: these characters show a fact which suggest connection of pre-Meiji Japan and Singapore.

Moreover, some Song-dynasty style Chinese characters, that are not variants of Ming-dynasty characters generally used in Japan, are found in the Dictionary.

(みよし・あきら)